



(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月分)

【平成 26 年 3 月】

2 月 14 日、18 年ぶりに京都府南部に大雪警報が発令されました。

目覚めると、外は一面の銀世界。しかし、雪景色からは、市内交通網、子どもたちの安全、農産物の被害などが頭をよぎります。幸いにも人的被害はありませんでしたが、豪雪地域でのこの不安はいかばかりか計り知れません。

自然災害はいつ起こるかわかりません。いざという時に一番頼りになるのが、「向こう三軒両隣」です。

地域の絆を深め、常日頃より支え、支え合う地域づくりが大切です。そのため、自治会が果たす役割は大きなものがあります。

自治会が無い地域での組織化や自治会加入をぜひともお願いします。

【平成 26 年 2 月】

今年甲午、十干十二支の 60 年のうち 31 番目の年で後半の 1 年目です。時を同じくして市長としての任期も後半を迎える年となりました。

市民の皆さまと約束したことの実現に向け、頑張る決意を新たに、市民協働を基本に市政を進めてまいりたいと考えています。

成人式では力強く自分の信じる道を突き進んで欲しいという思いを込めて、同志社の創立者新島襄の「Go, go, go in Peace. Be Strong. Mysterious Hand Guide you!」という（新約聖書の一節に「強くあれ」を追加した）言葉を贈りました。他人の意見に耳を傾けながら、自分が信じた道を一生懸命切り拓こうとすれば、必ずや異なる道となっても道は拓けると思っているからです。

これからも「明日のやわたづくり」に向け市民の皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願ひします。

【平成 25 年 12 月】

今年も残すところあと 1 カ月となりました。皆さまにとりまして、今年はどうな年だったでしょうか。

昨年 8 月の集中豪雨に続き、本年 9 月の台風 18 号で床上、床下浸水など、多くの市民が被害にあわれました。人的被害がなかったことがせめてもの救いではありますが、内水をポンプで木津川に排水できない事態も想定しなければならない状況でした。

今後、これらを踏まえた減災対策が大きな課題となりますが、その解決に向けた取り組みを進めてまいります。

また、平成 26 年度の予算は、これまでの教育、活力、安心・安全なまちづくりをさらに進めるとともに、健康づくりにも力を入れたものにしたと考えています。

市民の皆さまの生活インフラを整えるため、着実に歩を進めてまいります。

これからも市民の皆さまのご協力・ご支援よろしくお願ひします。

【平成 25 年 11 月】

八幡市が「市」となる原動力となった男山団地は、入居開始以来、40 年以上が経過し、緑豊かな住宅地として成熟する一方で、住宅の老朽化、高齢化と人口減少が進んでいます。男山団地の再生が、八幡市の将来のまちづくりの大きな課題だといえます。

10 月 25 日、「住みたい、住みつづけたい、男山」を目指して、山田啓二京都府知事立会いのもと、独立行政法人都市再生機構、関西大学、八幡市が相互に連携、協力することを定めた「男山地域まちづくり連携協定書」に署名しました。

今後、子育て世代を呼び込み、地域で支え合う、まちづくりを進めていくための研究を重ね、方策を講じてまいります。

市民の皆さんのご協力・ご支援よろしく申し上げます。

【平成 25 年 10 月】

台風 18 号により 8 月に運用が開始されて初めての「特別警報」が本市にも発令されました。床上、床下浸水など、多くの市民が被害にあわれました。人的被害がなかったことがせめてもの救いだと思っています。

被災されました市民の皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

災害時には、まず「命」を守ってください。テレビ、ラジオや防災行政無線などの情報に注意し、安全な場所へ避難するなど、身の安全を確保してください。必ず避難場所の確認をお願いいたします。

災害時での対応に万全はありません。何時も、改善点が出てきます。その改善をすすめ、市民の皆さんと協働で、更なる安全で安心できるまちづくりに全力を尽くしてまいります。

【平成 25 年 9 月】

8 月 20 日午後、朗報が舞い込んできました。第 40 回全日本中学校陸上競技選手権大会に出場された男山第三中学校 3 年生の榎木亜美さんが走幅跳で見事優勝とのこと。

激暑で少し身体がまいっていた時ですが、心にさわやかな風が吹き、元気が湧いてきました。

「よく頑張った」とねぎらいの言葉をかけたくなりました。

努力は活かさなければなりません。しかし、全国大会で優勝という結果を得ることは、なかなかできるものではありません。市民の皆さんと共に亜美さんに大きな拍手を送りたいと思います。

【平成 25 年 8 月】

暑いですね。猛暑、酷暑ではなく、激暑が当てはまるぐらい暑いです。熱中症の予防対策を万全にし、この激暑を乗り切ってください。

暑さに加え、集中豪雨が発生する時期でもあります。昨年同時期の記録的な豪雨は、記憶に新しいことだと思います。

突発する災害への対応は、やはり初動人員の確保です。

災害時に備え、7 月 9 日の早朝、徒歩や自転車で 30 分以内に市役所に到達できる職員 170 人を対象に、抜き打ち参集訓練を行いました。65 パーセント、110 人が 1 時間以内に駆けつけてくれました。

実際の災害時には、参集者が少なくなることは否めません。しかし、市民の生命、財産を守ることは市の責務でもあります。

災害に強いまちをつくるために今後とも努力してまいります。市民の皆様のご協力をよろしくお願いします。

【平成 25 年 7 月】

今春は、気温が低く、雨も少なかったことから、本市の特産物の筍、お茶が不作だったようです。季節のあり様は毎年異なっていますが、確実に時は流れていきます。人もそれぞれ歴史を積み重ねながら成長していきます。

先日「弁当の日」の提案者、竹下和男氏のお話を伺う機会があり、食育とは家族の作った食事を家族で楽しむところから始まることを学びました。そして、食事を作る家族の中に子ども達を入れようとするものと感じました。

子どもが自分の力だけでお弁当や食事を作れば、それを通じ人のために作ることの喜びや感謝の心が芽生えます。そして、社会人になった時の食の大切さに繋がっていきます。

生きる力を養っていくためにも、時には子どもに食事づくりを任せ、家族の歴史のひとつまとされてはいかがでしょう。

【平成 25 年 6 月】

「お茶見舞い」

八十八夜（5月2日）が過ぎ、茶摘みのシーズンです。初夏の陽気の中、恒例の「お茶見舞い」に市内の各製茶工場に伺いました。この時期は、皆さん気候の移り変わりを敏感に感じとり、日々茶園の様子をうかがいながらの茶摘みです。早朝より深夜まで大忙しです。摘んだ新芽は碾茶から、やがて抹茶になります。

私は一足先に、この「やわたのお茶」を古老柿（ころがき）とともに一服楽しませていただきました。一杯のお茶を間に、それぞれが出会いを大切にし、おもてなしを楽しみたいと常々私は思っております。日々の生活の中でもこの出会いを大切にし、交流がたくさん芽生え、育って欲しいものです。

市民の皆さんと交流し、心の繋がりをこれからも大切にしながら市政を推進してまいります。

【平成 25 年 5 月】

木津川、宇治川、桂川の三川が合流する背割堤の桜のトンネルが、4月初旬時点の人気お花見スポットで全国1位となりました。

全長 1.4 キロメートル、約 250 本のソメイヨシノの薄紅色の回廊、どこまでも続く青い空、そしてゆったりと流れる川の音、鳥のさえずり、自然がいっぱいです。市民の皆さんの散歩道としてなど、一年を通して愛されているこの場所が、全国の方に知られてしまうのは、もったいない気もしますが、やはり「やわた」のいいところをたくさんの人に知っていただくことも良いことだと思います。

背割堤は昭和 53 年に松から桜に代わり、30 年の時を経て人気お花見スポットの 1 位を取りました。

市民の皆様とともに、これまでの土台を踏まえ、誇れるまちの宝を幾世代にもわたり引継ぎ、「来たい 見たい 住みたい」わがまち八幡づくりに頑張ります。

【平成 25 年 4 月】

平成 25 年度が始まりました。

今年度は、市民協働を基本とした、これまでの取り組みのほか、防災・減災と次世代育成を重点項目に市政を推進することとしております。

市政を推進するに当たり、私が心がけていることは「平凡な至誠」ということです。これは、私の祖父が昭和 33 年 10 月に八幡町の助役に就任させていただいたときに自らの信条として述べたものであります。

誠意のある対応ということは、人それぞれの基準があり、なかなか判断が難しい面があります。祖父は、凡人たる自分のできることを自覚し、その範囲内で努力することしか自分ではできないことから、平常心で、まごころをもって対応するしかない、またそうすることにより、道は必ず開けるとの信念をこの言葉に込めたのだと思います。

浅学菲才の身ではございますが、奇をてらわず、市民の皆さんと職員と力を合わせて施策を進めてまいります。

今年度もよろしく申し上げます。